

- SSBJに基づく開示の義務化等を背景に、スコープ3排出量への関心は高まっている。本ガイドブックは、スコープ3排出量をバリューチェーン上の削減努力を表現する指標として用いるにあたり、事業会社に過剰な負担をかけず、かつ投資家にとって有用な向き合い方を取りまとめたもの。
- バリューチェーン上の削減取組をどう表現するかを論じる観点で、製品CFPや削減貢献量といった関連指標にも言及。

課題

意義

取組の方向性

事業会社

- 1次データの収集・2次データによる計算いずれの場合でも、**算出に相応の負担**がかかる
- 2次データを用いる場合、必ずしも個社の状況を正確に反映できない
- カテゴリによっては**自社でのコントロールが難しく、削減努力を反映する数値としては限界がある**

- **CN社会への移行に係る自社のリスクと機会の把握**につながる
- 開示の工夫を通じて削減努力を表現することができれば、**自社の取組アピール**に利用できる
- バリューチェーンに対するガバナンス不足の批判回避

- 2次データも活用して**まずはスコープ3排出の全体観を示すこと**で、**リスクと機会の把握**につながり、戦略立案や対外説明の材料となる
- マテリアルと判断したカテゴリについては、算出過程や経年変化を示す等の工夫で自社努力の訴求につなげることも考えられる
- アピールしたい取組に応じて、**CFP・削減貢献量・削減実績量**といった指標を組み合わせた**多角的な開示**を行う

投資家

- 算出に用いる前提が事業会社によって異なるため、**同業種であっても企業間で単純に比較することができない**
- 売上数量や事業ポートフォリオの変動にも影響を受けるため、**同一企業でも時系列で単純比較するのは難しい**
- 外部データベンダーのデータを利用することも可能だが、実態との乖離リスク等の課題がある

- **CN社会への移行に係る、投資先のバリューチェーン上のリスクと機会の把握**につながる
- GX市場創造が見込まれる分野の予測等による**投資機会の発掘**
- バリューチェーンに対するガバナンス体制の把握

- **スコープ3排出量のみで企業の削減努力を評価することの限界を認識**
- リスクと機会の把握の観点から、**マテリアルなカテゴリに着目するとともに、排出原単位や削減貢献量・削減実績量等も含めて企業の取り組みを多角的に捉える**
- スコープ3排出量を通じたポジティブな評価が定着すれば**経済全体の排出量削減**につながりうる

